

令和7年 月 日

京丹後市における公営プールのあり方に関する提言（案）

京丹後市公営プールのあり方検討会議
委員長 杉岡 秀紀

令和7年7月に検討の依頼をいただきました公営プールのあり方について、当検討委員会で熟考し、京丹後市の抱える課題や現状、これまでの経過、将来の展望について、委員会での意見をまとめましたので、京丹後市における公営プールのあり方について提言します。今後の京丹後市における公営プールのあり方の参考にしていただけると幸いです。

1. はじめに

京丹後市では、人口減少が続き、今後の施設の維持や更新について市民の負担が重くなることが想定されます。また、京丹後市では最終処分場や衛生センターなどの大型の必須事業も控えていることなどから、財政上の課題についても、市民も大変敏感になっています。一方で小学校のプールの多くは老朽化が進み、近年の猛暑などの気象状況により授業の実施が難しい状況が増えています。

京丹後市には、市内に民間のプール施設、近隣自治体にも公営・民間のプール施設があり、京丹後市民の利用実績もあります。令和6年度末で施設の供用を休止した網野温泉プールについては、検討員会において現地見学を行い「想像以上の損傷」「トイレの改修の必要性」「空調の更新」などの所見を共有した一方で、「プール槽は比較的傷みが少ない」との見立てもありました。耐震基準については旧耐震基準であることは確認されており、耐震検査が必須になり、検査結果によっては耐震補強が必要となります。

このような京丹後市におけるプールを取り巻く背景を考慮し、様々な角度から検討を行いました。

2. 提言の結論

海のあるまち、また健康長寿を目指す京丹後市において、市民にとってプールでの健康増進・リハビリに対するニーズ、児童生徒たちにとって学校プールの教育効果と安全性へのニーズ確保を目的とした公営プールの機能を市として整えることは「必要」と考えます。

理想としては、アンケートで確認された「子ども用」「リハビリ用」「ジムなどを備える複合施設」「休憩スペース」のニーズに応えられるよう、小規模な屋内プールと多目

的な施設を整備し、避難所機能も兼ね備えた総合的な施設を峰山地域に整備（新設）することです。これが実現できれば、学校の授業での利用、市民の健康増進ニーズにも応えられることになります。

一方、市民アンケート結果で確認されるように、①市の財政への懸念する声が多いこと、②市内に民間のプール施設、近隣自治体にも公営・民間のプール施設があり、京丹後市民の利用実績もあること、③プールに対する否定的な意見もアンケートでは多く寄せられたこと等を鑑みれば、ただちに「新設」という選択肢は現実的には厳しいと判断します。

そこで、公営プールについては、ハードそのものではなく、そこで提供されるサービスが重要であること、その運営にあたっては、必ずしも「公設公営」である必要性はないこと、言い換えると、「公設民営」という選択肢や「民設民営」への補助という選択肢もあり得ることから、検討会議としては以下の3点を提言します。

- (1) 市民のプール利用については、公営プールの新設を検討できる財政状況が確保されるまでの間は、市内の民間のプール施設、近隣自治体の公営・民間のプール施設を活用（利用促進）することを原則とし、その経済（料金）面、交通面等の補助制度の創設の可能性を市として検討すること。加えて、もし新設を検討する場合は、プールだけでなく、総合的な施設が想定されるため、市のグランドデザインとの整合性を検討すること。
- (2) 学校のプール利用については、当面、自校プールを活用することとするが、老朽化や昨今の酷暑等の理由により、自校プールが使えなくなった場合については、民間や近隣のプールを活用し、プール授業の機会を確保すること。また、専門のインストラクターによる指導を受けられるよう配慮すること。
- (3) 網野温泉プールについては、必要な改修項目（耐震化、トイレ等の改修、空調、配管、機器類の更新）及び運営方法を明確にし、費用負担、耐用年数、安全性の条件を明示した上で、「限定的な再開」の可能性を検討すること。ただし、その際、施設の休館直前の利用実態を考慮し、運営方法や施設の利用促進策や、収支バランスの改善等を条件とする。

3. 市民ニーズについての補足

市民ニーズの把握のため検討委員会で実施したアンケート結果では、将来の公営プールの利用の意向について「利用しない（64.0%）」が最も多い一方、利用を考える方々（34.0%）は、「健康増進」「遊び・娯楽」の目的での利用を望む声が多くありました。また、公営プールの整備に際し、求められる設備、機能については「子ども用」「リハ

ビリ用」「ジムなどを備える複合施設」「休憩スペース」が求められていました。利用料金の設定については「500円～800円」が最も多く、設置場所は「峰山（24.9%）」が最も多く、次いで「網野（15.4%）」となりました。

自由記述欄については、財政への配慮を求める意見と公営プールの設置に反対する意見が多く、民間や近隣のプール施設の活用を求める意見も多数ありました。また、プールの設置に前向きな意見では、網野温泉プールの改修がプールの新設より少し多いという結果も確認できました。子どもの遊び場としてのプールや学校のプール授業での利用を望む意見や、健康増進、リハビリ利用、高齢者への配慮や、送迎や回数券の利用しやすいサービスに関する意見も多数ありました。

4. 学校プールについての補足

学校プールの老朽化と近年の猛暑のため、屋外での授業が難しくなっている現状があります。児童の泳力の向上は、教育上の成果のみならず水難事故防止にもつながるものであり、特に海のあるまちとして、子どもの水泳授業は大きな意義があるものと言えます。近年、小学校のプール授業は専門のインストラクターによる指導が導入される事例が増えており、近隣自治体でも急速に進んでいます。

現行の市内の小学校のプールは全てすぐに使えなくなるものではありません。ただし、築年数が相当経っているプールが多いことから、学校に残すとした場合には、大幅な改修や計画的な集約（例えば、6町に1校だけ残す）が不可欠です。

5. プールを活用した健康増進、リハビリについての補足

水中運動は、膝や腰への負担が少なく高齢者にも可能な運動であり、幅広い年代の方の体力づくりに有効です。「ウェルストーク豊岡」への視察により、健康増進のための取組は、プールの設置だけでなく、インストラクターによる指導や安全対策のための監視体制、また、トレーニングジムの利用率の高さについても確認しました。

市民の健康増進を図る上では、プールの設置だけでなく、インストラクターの配置やトレーニングジムの設置も効果的であると考えられますが、一方で民業圧迫にならないよう、考慮が必要です。民間や近隣のプログラムを活用するため、必要に応じて移動や利用面での支援を検討することが望まれます。

6. 施設の防災機能についての補足

公共施設の設置においては、平時と有事の両方に役に立つ施設であることが、市民の理解につながると考えられます。災害時には、非常用電源やトイレ、空調などの機能が求められます。また、その設置場所についても、慎重な検討が必要になります。施設の整備については、防災の観点も考慮し、多角的に検討が必要と考えます。

7. まとめ

当検討会議の公営プールのあり方に関する考え方としては、市民の学校プールに対するニーズや、プールでの健康増進・リハビリに対するニーズを受け、まず、市民のプールでの運動の機会の確保できる環境を整えることを一番に検討しました。ただし、市民アンケート結果にも表れている市の財政への懸念やプールに対する否定的な意見も受け止め、引き続き市民や議会とも対話しつつ、慎重に検討を進めることが重要であることを申し添えます。